



# 平成武師道

## (人間活動学)

### 「生活」

朝が来て、夜が来る。  
そしてまた朝が来る。  
生まれてから今までこの連続である。  
毎日、喜怒哀楽を感じながら一日を過ごしては、次の朝を当たり前を迎えている。  
時には、この当たり前がとても素晴らしいことだと感じる時もあるが、少し時間が過ぎ去ってしまうと、もう忘れてしまっていることがよくある。  
何も問題のない生活。  
ふと時間ができた時。  
こんな場合の状態の時には、生きていることに感謝してしまう。  
しかし、忙しく時間が取れない時。  
問題が山積みされ、悩んでいる時。  
こんな時は、感謝どころではないだろう。  
普段の生活を振り返ってみると、何となく同じように感じるが、全く同じ日はないのである。  
毎日決まったことを、繰り返し続けて生活はしているが、必ずどこかは変化があるのである。  
何も考えないから、気が付いていないだけなのだ。  
それでは、今までのことを考えると、生きているということは、「奇跡」だという答になる。  
それは、我々人間は、必ず死ぬからだ。  
人類が誕生して、今までの間、必ず死を迎えている。  
どんな形でも死は必ず来るのである。  
だから死は当たり前のことであり、恐れることもないのである。  
とは言え、やはり死は怖く不安なものだ。  
しかし、それでは話が始まらない。  
ここで私が言いたいのは、死は必ず来るのだから、生きている間にできることをする。  
これだけである。  
学ぶ時は学ぶ。  
働く時は働く。  
遊び時は遊ぶ。  
仕方がない時もあるが、怠けたり、面倒臭がって後回しにする事はいけない。  
生きているという「奇跡」を感じたのなら、やりたい事があればやらなければならないのではないだろうか。  
生きることは、大変なことである。  
でも心掛けひとつで楽しくもなると思うのだ。  
普段の生活でさえ「奇跡」だと考え、悔いのない人生を歩んでいこうではないか。  
「生活」とは、生き生き生きるという意味に見えるし、活力を持って生きるにも見える。

やはり「奇跡」である。



佐々木 昭